

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語 A IV	
科目基礎情報							
科目番号	0054			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	生産デザイン工学科（機械創造システムコース）			対象学年	4		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『Outstanding Monozukuri Companies』（Shohakusha）						
担当教員	中村 嘉雄,東島 加奈						
到達目標							
・身近な日本のものづくり企業を紹介した英語文章を通して「ものづくり」に関する基本的な英語表現を理解できる。 ・英語コミュニケーションに必要な基本的な文法を理解し使うことができる。 ・英文読解に必要な基本的文法を正しく理解し活用できる。 ・英語論文の基本的な構成、書き方、英語表現を理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ものづくり、『サイエンス』の英語表現を8割以上理解できる。			ものづくり、『サイエンス』の英語表現を7割以上理解できる。		ものづくり、『サイエンス』の英語表現を6割以上理解できない	
評価項目2	英語文法を8割以上理解できる			英語文法を7割以上理解できる		英語文法を6割以上理解できない	
評価項目3	英語の論文表現を8割以上理解できる			英語の論文表現を7割以上理解できる		英語の論文表現を6割以上理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では、身近な日本の「ものづくり」企業について書かれた英文を通して、総合的英語力を向上させるとともに、「ものづくり」に関する基本的な英語表現も学ぶ。また、雑誌『サイエンス』の文章もとりあげ、基本的な英語科学表現も学ぶ。						
授業の進め方・方法	1. 事前に作ってきた本文訳を授業で確認する。 2. 授業では教科書以外に雑誌『サイエンス』から抜粋した記事も利用し、基本的な英語科学表現も学ぶ。 3. 授業に関連した内容を中心に小テストを行う。						
注意点	自分なりの訳を必ず準備して授業に臨むこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		英語学習の意義、予習復習の仕方		
		2週	Chapter 1 Mazda		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		3週	Chapter 1 Mazda		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		4週	Chapter 2 ハウス食品		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		5週	Chapter 2 ハウス食品		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		6週	Chapter 3 TOTO		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		7週	Chapter 3 TOTO 小テスト		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	試験問題解答				
		10週	Chapter 4 シマノ		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		11週	Chapter 4 シマノ		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		12週	Chapter 5 マツダデザイン		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		13週	Chapter 5 マツダデザイン		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		14週	まとめ 小テスト				
		15週	定期試験				
		16週	定期試験内容についての解説				
後期	3rdQ	1週	Chapter 6 UCC		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		2週	Chapter 6 UCC		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		3週	Chapter 7 ダイフク		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		4週	Chapter 7 ダイフク		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		5週	Chapter 9 ヤンマー		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		6週	Chapter 9 ヤンマー		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		
		7週	まとめ 小テスト		Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。		

	4thQ	8週	中間試験	
		9週	試験問題解答	
		10週	Chapter 10 山岡孫吉の生涯	Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。
		11週	Chapter 10 山岡孫吉の生涯	Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。
		12週	Chapter 13 日東電工	Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。
		13週	Chapter 13 日東電工	Chapterのものづくり英語表現や文法を理解する。雑誌『Science』の記事を読む。
		14週	まとめ小テスト	
		15週	定期試験	
		16週	定期試験内容についての解説	定期試験の内容を理解する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	後14
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	後14
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	後14
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	後14
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	後14
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	後14
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	後14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	後14
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	後14
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	後14
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	後14
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	後14
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	後14
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	後14
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	後14
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	後14
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	後14
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	後14
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	後14
			日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	後14
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	後14
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	後14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	後14
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	後14
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	後14
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後14

				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後14
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	後14

評価割合

	試験	課題テスト	課題・小テスト ・全学単語テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0